

## 主 文

本件抗告を棄却する。

## 理 由

本件抗告の趣意のうち、憲法三二条、三七条違反をいう点は、刑訴法二四条が憲法に違反しないことは当裁判所の判例（昭和二三年（つ）第六号同年一二月二四日大法廷決定・刑集二巻一四号一九二五頁、同三四年（し）第一二号同年三月二七日第一小法廷決定・刑集一三巻三号四一五頁参照）の趣旨に徴し明らかであるから、所論は理由がなく、その余の点は、単なる法令違反の主張であつて、刑訴法四三三条の抗告理由にあたらぬ。

よつて、同法四三四条、四二六条一項により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五五年一〇月二八日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	鹽	野	宜	慶
裁判官	栗	本	一	夫
裁判官	木	下	忠	良
裁判官	塚	本	重	頼
裁判官	宮	崎	梧	一